

昨今、日本のスポーツ界で起こっている不祥事についての「警告」として、以下の文書が JVA より配布されています。今一度、指導者・保護者で記載内容について各チームでの取り組みを一層強化していただきますようお願いいたします！ (発信:OEVF 会長 山崎 敦久)

2018 年 10 月 1 日

関係者各位

公益財団法人日本バレーボール協会
会長 嶋岡 健治

コンプライアンスの更なる強化に向けて

JVA 加盟団体及び関係者の皆様におかれましては、常日頃よりバレーボールの発展・普及にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、JVA では、法令等を誠実に遵守するだけでなく、スポーツパーソン、スポーツ関係者として品位と名誉を重んじつつ、フェアプレーの精神に基づいて他の範となるよう行動し、バレーボールの健全な普及・発展に資するため、2016 年 4 月に「コンプライアンス宣言」をいたしました。

コンプライアンスとは、法令や内部規程等のルールを遵守することにとどまらず、広くは社会規範や倫理規範に基づいて行動することも含まれています。今やコンプライアンスを守れない団体や企業は社会的信用を失うことのみならず、その存続すら危うくすると言われていています。このことは、スポーツ界においても例外ではありません。

しかしながら、昨今のスポーツ界においては、協会組織のトップや幹部による助成金の不正流用やパワーハラスメント、禁止薬物混入事件、指導における体罰・暴力等に関する報道が後を絶ちません。このままでは、東京 2020 大会に向けたムーブメント醸成の大きな足かせになるだけでなく、大会の価値までもスポーツ界自らが毀損してしまうのではないかと、憂慮しております。

このことは、バレーボール界も例外ではありません。指導における体罰・暴力の報道が後を絶たないこともその一端を映し出しているものと思います。

JVA の組織運営体制においてコンプライアンス違反の芽は存在しないか、まずは JVA 自らの足元を点検するのは勿論のこと、JVA 加盟団体及び関係者の皆様におかれましても、コンプライアンス違反は絶対に行わないとの決意のもと、現組織体制の点検・改善・強化を実行するようお願い申し上げます。

私が JVA の会長に就任して以降も、コンプライアンスの実践は JVA における最重要課題のひとつと位置付けております。私（会長）の厳命の下、JVA が率先してコンプライアンスを推進し、違反行為に対しては断固たる厳しい処分を下す決意です。